

聴こえて

いますか？



お母さん。

お父さん。

お姉ちゃん。

お兄ちゃん。

また見ぬ、赤ちゃん。

聞こえていますか？

私と弟は、元気です。

たまに喧嘩はするけど、それでも結局は泣きながら謝って、仲直りをしています。

聞こえていますか？

3月11日から2年経ったけれど

私にとっては、まだ昨日のように感じます。

みんなは元気ですか？

もう寒くはないですか？

もう苦しくはないですか？

もう怖い思いはしていませんか？

私は一度もみんなのことを忘れたことはありません。

弟もそうです。

弟は泣き虫だから、今もまだみんなのことを思って泣いています。

私も時々、泣きます。

聞こえていますか？

お母さん。

どんな人よりも聡明で、優しくお母さん。

私に毎日言っていた言葉を覚えていますか？

「人生は3歩。生まれる、生きる、死ぬ」

「だから、最後の3歩目は慎重に歩みなさい」

お母さんは、最後の1歩は慎重に歩めましたか？

抗うことのできない、運命の波に押し流されて、踏み出さませんでしたか？

そのことを、後悔してませんか？

私はお母さんのこと、誇らしく思っています。

お腹の中にある小さな命を庇いながら、必死に生きようとしたお母さんが。

瓦礫の中、その命を守るようにしていたお母さんが。

私は世界一お母さんが大好きで、誇らしく思ってます。

残された私と弟は、3歩目はお母さんのように、必死に抗いたい。

無様でもなんでもいいから、お母さんがそうしたように、私たちも生きたい。

だからもう少し、そっちへ行くのは遅くなるかもしれません。

だけど、心配はしないでください。

また、大好きな肉じゃがを作って、あの時のように笑いながら待っていてください。

そうしたら、ただいまって言います。

聴こえていますか？

お父さん。

医者として、毎日忙しく働いていたから、少ししか話したことがなかったですね。

それでも私は、お父さんのことが大好きでした。

「魚を焼くとき、裏表を返してもどちらも同じ形をしてるだろ？」

「嘘も同じだ。どんなに返しても、それは嘘でしかない」

口数の少ないお父さんがくれた、大切な言葉。

たくさんの嘘があちらこちらに転がっていて

何を信じていけばいいのか分かりません。

そんなとき、私はいつもこの言葉を思い出して、自分を奮い立たせています。

知っていますか？

お父さんがくれた、何気ないこの言葉が

何年も経った今でも、私を救ってくれています。

誰よりも責任感の強いお父さんだから、私は心配です。

私と弟を置いて逝ってしまったことを、悔やんでいるんじゃないかと、心配です。

でも、私たちのことは気にしないでください。

自分のことよりも、足腰の悪い近所のお婆さんのことを助けようとしたお父さんが、

誰かを助けようとして、自分の命を顧みなかったお父さんが、大好きです。

だから胸を張ってください。

こんなに愛されているお父さんは、きっと世界でたった1人だけです。

聞こえていますか？

お姉ちゃん。

長女として、たくさんの我慢を強いられてきたけれど、幸せでしたか？

私はお姉ちゃんの妹で、幸せでした。

幼稚園の先生になると言って、飛び出してしまったお姉ちゃん。

親の制止にも目もくれず、一生懸命頑張って先生になったお姉ちゃん。

心配で、いつも、いつも「先生なんてやめちゃえ」って言っていたけど

本当はそんなカッコいいお姉ちゃんが大好きで、羨ましかったです。

実は、こっそりお姉ちゃんの働いている幼稚園に行ったことがあります。

いつもニコニコと明るく笑っていたお姉ちゃんは、幼稚園でも笑っていましたね。

どの先生よりも、輝いて見えました。

私には無いものをたくさん持っている、素敵なお姉ちゃん。

お姉ちゃんが受け持っていたクラスのお母さんから、預かっている言葉があります。

「優しくて、明るかった先生に願いがあるんです」

「そちらへ私の子どもも逝ったので、どうかもう一度先生として見てやってください」

泣きながらそう言われた言葉に、私も思わず泣いてしまいました。

誰からも好かれていたお姉ちゃん。

私と弟は、その中でも1番、誰よりもお姉ちゃんのことを想っています。

大好きだよ、お姉ちゃん。

聞こえていますか？

お兄ちゃん。

長男だけど、友達みたいだったお兄ちゃん。

少し照れ屋だったけど、少し無愛想なところもあったけれど

それでもお兄ちゃんのことを大好きでした。

あの日、家を出ていくときに、どちらがゴミを捨てるかで喧嘩になったこと、覚えていますか？

私は今でもあのときのこと、後悔してます。

「お兄ちゃんのパカ！お兄ちゃんなんて、大嫌いだ！死んじゃえ！！」

嘘でも言ってしまった言葉が現実となってしまいました。

もし、あのときがお兄ちゃんと会える最後の日だと知っていたのなら

私は喜んで自分からゴミを捨てて、そうしてお兄ちゃんに伝えていました。

「お兄ちゃん、大好きだよ。」

死んじゃえ、なんて嘘です。

本当は生きていてほしかったです。

ごめんね。

ごめんなさい。

お兄ちゃん。

また生まれ変わっても、私のお兄ちゃんにいてくれますか？

聞こえていますか？

まだ見ぬ、赤ちゃん。

女の子か、男の子かも分からないまま、全てが終わってしまったけれど

私はお母さんのお腹に触れて、確かに君を感じていました。

男の子なら、照(てる)。

女の子なら、宝子(たかね)。

そう名づけるようと、家族全員で考えた名前です。

太陽のように明るい笑顔で、人を照らせるように。

お母さんにとっても、お父さんにとっても、家族全員にとっても、大切な宝の子どもになるように。

大切に、愛おしい君に早く逢える日を、みんな楽しみにしていました。

君は目には見えなかったけれど

確かにその命を感じ、愛していました。

私がお母さんになるのは、もう少しだけ先のお話です。

でも私がお母さんになったとき、もう一度来てくれませんか？

もう一度、私に君を愛させてくれませんか？

今度はきっと、もっと大切に育むと約束します。

もう一度出会える、その日まで。

しばらくの間だけ、おやすみなさい。



聞こえていますか？

私たちの、大切に世界一の家族。

みんなが居なくなってから、変わったことはたくさんあります。

でも同じように太陽は昇るし

2年しか経っていないけれど、どうやら他の人たちは2年も経ったと思っているみたいです。

3月11日に起きたことが、少しずつ忘れられているみたいです。

悲しいですが、これが前に進んでいるということなのでしょうか？

まだ幼い私たちにはよく分かりません。

でも、忘れてしまうことが

大切な家族を忘れてしまうことが前に進むことだというのなら

私も弟も、これ以上前には進みたくありません。

わがまま、でしょうか？

聞こえていますか？

3月11日。

大切なものを多く失いました。

でも、残ったものがあります。

絶望ではありません。

悲しみではありません。

苦しみでもありません。

大切な人と一緒に築きあげた過去



そして未来。

愛した家族が育ててくれた、この命。

失った分、残っていたものは多くあります。

終わりのない、始まりはないと知りました。

始まりがある限り、終わりもあるのだと知りました。

だからこれはきっと、悲劇なのではないのです。

悲しい別れではないのです。

ここからようやく、私たちが始まるのだと信じています。

だから、さよならは言いません。

いつ始まるのか分からないけれど

またいつか出会える

またいつか笑いあえる

その日まで。

また、会いましょう。

聞こえていますか？

ずっと、ずっと、大好きです。

